

教育学部教職科目カリキュラムマップ

養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基盤としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通じた子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢				
年次	授業科目	到達目標	教育目標 1：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標 2：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標 3：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
	教職入門 I	教育をめぐる現状と課題を理解し、大学における学修や研究への展望を明らかにし、教職への意欲を高める。	◎	○	◎
	教育学概説 A (本質)	教育の理念・思想・歴史についての基礎的な知識を身につけ、教育という営みを多角的に理解するとともに、昨今の教育改革の動向や、教育をめぐる現代的な諸問題に対し、積極的に考察しようとする態度と、考察のための具体的な視点を学ぶ。	◎	○	◎
	教育学概説 B (制度)	教育制度、教育法規に関する基本知識を身につけ、日常的教育活動における「制度」のもつ役割と意義を学習する。また、学校・学級経営の観点から、教育委員会や教員に求められている役割について考察する。	◎	○	◎
	特別活動論	・小・中学校における特別活動に関する基礎理論を学ぶ ・小・中学校の特別活動の教育実践に必要な基礎知識を習得する。 ・小・中学校の特別活動の実践を批判的に検討し、その発展を構想しつる新たな視点を習得する。	◎	○	◎
	教育心理学概説	・幼児期・児童期・青年期の子どもの心身の発達過程について学ぶ。 ・発達障がいの子どもの特徴について理解する。 ・特別支援教育に関する基礎知識を獲得する。 ・学習過程の基礎としての動機づけや記憶・思考について理解を深める。	◎	○	◎
	総合的な学習指導法	総合的な学習の時間の目標や意義について理解し、その趣旨に沿った学びを実現するための指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	◎	○	◎
	ICT活用の理論と実践	・学校教員として、教授活動全般および学級・学校経営における問題解決の手段の一つとして情報技術を活用することができるICT活用指導力を高めるための見方考え方を知る ・学校教員が持つべき資質能力の一つとしての情報活用能力として、手段と目的を区別する見方、教育目標のよりよい達成のためにICT活用の考え方を知る ・実際によりよい教育目標達成のためにICT活用を工夫した授業の設計と模擬授業の実習体験を通して座学での学びを深める	◎	○	◎
	初等国語科概説	・「国語」に関する理解を深める。	◎	○	◎

初等社会科概説	テーマは「社会科が持っている多様性の理解」とする。社会科は地理・歴史・公民など様々な分野からなる複雑な教科内容を持つ。この授業では、社会科に関する様々なテーマを、担当教員がわかりやすく解説し、受講者に社会科が扱う教科内容の重要性や幅広さ、および教員が提示した個々の分野についての知識について一定程度理解させる。	◎	○	◎
算数科概説	小学校教員養成段階における力量形成として、算数科に関わる算数の内容（数と計算領域・量と測定領域・図形領域・数量関係領域）を確実に捉えること。算数指導の際に必要なこと、児童の学力や授業の看取りに関する素地を培うこと。数学を学ぶ立場から、算数を教える立場への意識転換を図ること。	◎	○	◎
初等理科概説	自然科学の基本的な知識、考え方について理解を深めることを目標とする。理科において求められている、観察・実験の技術を習得するため、実践的な活動をおこなうことを取り入れた授業を行う。	◎	○	◎
初等音楽科概説	教科音楽の授業を担当できる指導力を育成し、様々なジャンルの音楽のよさや美しさを味わう。	◎	○	◎
図画工作科概説	図画工作科を指導する上で必要不可欠な基礎的技能と考え方を修得する。	◎	○	◎
初等体育科概説	小学校の体育教員としての最も基本的な知識を習得する。小学校教育の中での体育の意義と役割について理解する。身体運動を教えることの意味を理解する。	◎	○	◎
初等家庭科概説	・小学校の家庭科の学習内容について理解する。 ・生活のなりたちや生活上の課題について説明することができる。 ・生活主体者として自分の生活を様々な角度から眺め、理解する。	◎	○	◎
生活科概説	・生活科の目標及び内容など、学習指導要領にそって教科の特質を学びその意義を理解する。 ・教師は子どもの生活をどうとらえてきたのか、子どもの発達の課題をどこに見いだしたのかを考え、生活科を捉えることができる。 ・生活科の実践には何が求められているのかを考えながら生活科を捉えることができる。	◎	○	◎
初等英語科概説	小学校における英語活動・外国語（英語）科の基盤となる、各分野での基本的知識を身につける。授業実践に必要な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を獲得する。	◎	○	◎
中等家庭科指導法 A	・家庭科教育の特性を歴史的変遷を踏まえて理解する。 ・家庭科教育の教科書や実践的事例報告を資料として、実践上の特徴について理解する。 ・家庭科教育に関する研究についての理解を深め、自ら探究する方法を学ぶ。	◎	○	◎
教育方法・課程論	・授業者としての自覚を持って、初等・中等教育におけるよい授業とは何かを考えることができるようにする。 ・よい授業を創っていく上で必要な知識・技能と基礎理論を身に付ける。 ・授業を構成し、実践し、その実践を振り返ることのできる力量を身につける。	◎	○	◎
道徳教育論	・道徳教育の位置づけの変遷を押さえ、現代における道徳教育の課題について理解する。 ・小・中学校における道徳教育の意義と目標を理解する。 ・子どもを取り巻くさまざまな課題と道徳教育の関係について考える。 ・道徳の授業づくりのポイントを理解し、実際の授業案の作成と授業づくりができるようになる。	◎	○	◎
生徒・進路指導論	・児童・思春期の生徒にとっての学校の意味と、そこでの活動及び生徒指導と・進路指導について理解する。 ・教師にとっての生徒指導と進路指導の意味について理解する。 ・地域社会の中での子どもの育ちとそこでの支援について理解する。	◎	○	◎
教育相談	・児童期・思春期・青年期の心理的特徴について理解する。 ・教育の課題である不登校、いじめ、逸脱行動等の問題について、実態を知り、対応方法を学ぶ。 ・教育相談の実態を知り、教育相談の在り方について、具体的な場面を通して学ぶ。 ・全児童を対象とした予防的・開発的心理教育の意義と手法を学ぶ。	◎	○	◎

初等国語科指導法	・小学校学習指導要領の内容と構成を理解する。 ・小学校国語科授業を構想することができる。	◎	○	◎
初等社会科指導法	・初等社会科指導法 ・初等社会科の性格・授業づくりの基礎について理解・習得することができる。 ・具体的な実践をできるだけ多く取り上げ、その分析を通して小学校社会科授業のあり方を考えられるようにする。	◎	○	◎
算数科指導法	現在の算数教育動向を理解し、教職への意欲と関心を培うこと。特に算数の学習指導要領の趣旨とその内容の概要について理解し、それらの数学的な理解の基礎と小学校算数科における指導に必要な素地を培うことを通して、小学校算数科における教材と指導法について理解すること。数学を学ぶ立場から、算数を教える立場への意識転換を図ること。	◎	○	◎
初等理科指導法	・小学校理科の教育課程の主な構成要素を理解する ・小学校児童の自然認識の発達の特徴を理解する ・小学校理科の指導法の主たる特徴を理解する ・小学校理科の学習指導案作成の基本を理解する	◎	○	◎
初等音楽科指導法	教科音楽を担当できる資質・能力を身に付ける。音楽のよさや美しさを、児童に伝えられる力量を形成する。	◎	○	◎
図画工作科指導法	図画工作科の教員として必要な基礎的知識と授業実践力及び教材開発力を身に付ける。	◎	○	◎
初等体育科指導法	小学校体育科の理論および基礎的知識を身に付ける。模擬授業を通じて体育の学習内容である技能を体得し実践的な指導法を深く理解し、教師の支援の仕方を身に付ける。	◎	○	◎
初等家庭科指導法	・家庭科教育の歴史の変遷を踏まえた上で、小学校における家庭科教育の目標を理解する。 ・家庭科の教育内容を理解した上で、適切な指導方法を用いた学習指導案を作成する。	◎	○	◎
生活科指導法	・生活科の授業を創り出す上で必要な事項（教育方法・教育内容）について学ぶ。 ・受講生自身も活動して、生活科の特質である「活動によって学ぶ」ことの意義と楽しさを知る。 ・学習活動案の作成と模擬授業を行う。	◎	○	◎
初等英語科指導法	○外国語活動・外国語の学習・指導に関する実践的な知識を身につける。 ○授業における指導と学習評価の基礎を身につける。 ○英語で授業を進める力の基礎を身につける ○英語の言語活動を作成できる	◎	○	◎
中等国語科指導法A	・中学校学習指導要領（国語編）の内容と構成を理解する。 ・中学校国語科授業を構想することができる。	◎	○	◎
中等国語科指導法B	・中学校における国語科教育の現状を理解し、実際に授業計画、学習指導案を作成できるようになる。	◎	○	◎
中等国語科指導法C	・中学校および高等学校学習指導要領（国語編）の内容と構成を理解する。 ・中学校および高等学校国語科授業を構想することができる。	◎	○	◎
中等社会科指導法A(地理歴史科)	・中等社会科・地理歴史科教育学概論 ・中学校社会科・高等学校地理歴史科の基本的性格・授業づくりの技能を習得する。 ・具体的な実践をできるだけ多く取り上げ、その分析を通して中学校社会科・高等学校地理歴史科授業のあり方を考えられるようにする。	◎	○	◎
中等社会科指導法A(公民科)	・現行の中学校公民的分野の学習目標・理念が説明できる。 ・現行の公民的分野の学習の内容構成の特色を理解できる。 ・学習指導案を作成する際の留意点を説明できる。	◎	○	◎
中等社会科指導法B(地理歴史科)	・中等社会科・地理歴史科教育学概論 ・中学校社会科・高等学校地理歴史科の実践的能力の向上・授業開発の技能を習得する。 ・具体的な実践をできるだけ多く取り上げ、その分析を通して中学校社会科・高等学校地理歴史科授業のあり方を考えられるようにする。	◎	○	◎
中等社会科指導法B(公民科)	・公民科の目標・理念について説明できる。 ・公民科の歴史の変遷を理解できる。 ・模擬授業のための学習指導案を作成し、授業が展開できる。	◎	○	◎

中等数学科指導法 A	現在の数学教育動向を理解し、教職への意欲と関心を培うこと。数学科の学習指導要領の趣旨とその内容の概要について理解し、それらの数学的な理解の基礎と数学科における指導に必要な素地を培うことを通して、中学校・高等学校数学科における教材と指導法について理解すること。活用型数学の教材と指導法について理解するとともに、特に数と式領域の教材を深く理解すること。	◎	○	◎
中等数学科指導法 B	現在の数学教育動向を理解し、教職への意欲と関心を培うこと。数学科の学習内容を理解するとともに、その指導方法を身に付けることを通して、中学校・高等学校の数学教育についての理解を深めること。活用型数学の教材と指導法について理解するとともに、特に図形領域の教材を深く理解すること。	◎	○	◎
中等数学科指導法 C	数学科の学習内容を理解するとともに、その指導方法を身に付けることを通して、中学校・高等学校の数学教育についての理解を深めるとともに、数学を学ぶ立場から、数学を教える立場への意識転換を図ること。授業実践を作りだす力の基盤の形成をすること。特に、関数領域の教材を深く理解すること。	◎	○	◎
中等理科指導法 A	・中等教育段階の理科教育の目標と歴史的変遷、現状と課題を理解する ・科学の本質と科学的探究の過程について理解する ・科学的思考力の育成と科学的な概念の形成、学習意欲、学習評価、学習の意義や有用性、科学コミュニケーションに関わる指導の理論的背景を理解する	◎	○	◎
中等理科指導法 B	・中学校学習指導要領理科の内容構成を理解する ・理科の単元展開と評価規準について理解する ・理科授業における指導法の主要な構成要素について、基本的な知識と技能を習得する ・多様な分野の模擬授業を通じて実践的な指導力の基礎を育む	◎	○	◎
中等理科指導法 C	・理科における教材・教具の役割と、理科各分野における教材研究の基礎を理解する ・ICT機器の活用、理科での安全性確保、理科室経営について基本的知識と技能を習得する ・理科の教材研究と自由研究に取り組み、実践的な指導力の基礎を育む	◎	○	◎
中等音楽科指導法 A	ロールプレイングを通して、実践的能力を高める。歌唱指導による模擬授業から、教師の役割について学ぶ。	◎	○	◎
中等音楽科指導法 B	鑑賞指導の大切さを再考する。さまざまな時代様式をもつ楽曲をどう教材として扱うかについて学ぶ。	◎	○	◎
中等音楽科指導法 C	器楽指導における編曲の大切さを学習し、教師に求められる資質・能力について問い直す。さまざまな楽器の組み合わせによるオリジナルな演奏形態を作る。	◎	○	◎
中等音楽科指導法 D	歌唱指導の実践力の強化。自分の実力に合わせた伴奏譜を創作して、歌唱指導の模擬授業を行う。	◎	○	◎
中等美術科指導法 A	造形美術教育の基礎的知識と技能を修得する。	◎	○	◎
中等美術科指導法 B	造形美術教育の研究内容及び方法を理解し、自ら教科（教材/教具）について研究する能力を身に付ける。	◎	○	◎
中等美術科指導法 C	美術科の授業を計画し、実行する能力を身に付ける。	◎	○	◎
中等美術科指導法 D	美術史上に見る「表現」全般を理解し、「表現」に関する教材を開発することが出来るようになる。	◎	○	◎
中等保健体育科指導法 A	保健体育での最も基礎的な知識・用語を学ぶ。学校における年間計画、単元計画を見渡すことができる。指導案を作成することができる。	◎	○	◎
中等保健体育科指導法 B	中等保健体育科指導法Aで学んだ知識で模擬授業を行う。模擬授業を通して、各種目の特性を学び、指導上の注意点を理解する。	◎	○	◎
中等保健体育科指導法 C	保健体育科の指導内容をいくつかの教材を通して習得し、指導案の作成や模擬授業を行うことによって、授業づくりを学習しながら、保健体育科教材の指導方法を習得する。	◎	○	◎
中等家庭科指導法 B	・家庭科教育の特性を踏まえて、教材研究、および中等教育家庭科における学習指導案の作成ができること。 ・家庭科教育の歴史を学び、教科書や実践事例報告に学ぶ。	◎	○	◎
中等家庭科指導法 C	・家庭科教育の特性を理解し、領域ごとの特徴を生かした授業作りができること。 ・家庭科教育に活用できるさまざまな指導方法を理解し、学習指導案を作成できること。	◎	○	◎
中等技術科指導法 A	技術教育及び技術科教育を認識し、それらを構成する要素に関する基本的な知識と技能を習得する。	◎	○	◎

中等技術科指導法 B	技術科の授業を確実に展開するための基本的な知識と技能を習得する。	◎	○	◎
中等技術科指導法 C	授業評価の基本的事項の定着と、具体的な評価方法及び評価規準の設定を行う。また、カリキュラムの設計方法を学び、各学習内容の指導計画を作成する。	◎	○	◎
中等英語科指導法 A	・英語教師として必要な基本的な知識と技能を身につけることができる。 ・英語で授業を進めるための基本的な英語力（発音、表現等）を身につけることができる。 ・英語の授業を効果的に行うための重要な事柄を知ることができる。 ・教育実習を意識した授業の構成力を身につける。	◎	○	◎
中等英語科指導法 B	・英語教師として必要な基本的な知識と技能を身につけることができる。 ・英語で授業を進めるための基本的な英語力（発音、表現等）を身につけることができる。 ・英語の授業を効果的に行うための重要な事柄を知ることができる。 ・教育実習を意識した授業の構成力を身につける。	◎	○	◎
中等英語科指導法 C	・英語指導技術の基本を習得する。 ・中学校での英語を指導する上で必要な基本的な技能を、「授業展開」に従って紹介し、参加者が実践する。特に、教育実習において音読、オーラルイントロダクション、言語活動作成が十分にできるだけの実践力とそれを支える英語力を育成することも目標とする。	◎	○	◎
中等英語科指導法 D	・英語指導技術の基本を習得する。具体的には英語で授業を進める力を養う。 前半で・中学校、後半で高校を扱う。教育実習において音読、オーラルイントロダクション、言語活動作成が十分にできるだけの実践力の習得を目指す。また、外部の学会・研究会に参加してレポートを提出してもらう。 ・小学校と中学校、さらには高校との連携が叫ばれている昨今の状況を鑑み、小学校の実態を知ることが必須である。そこで、小学校のビデオを視聴したり、言語活動を体験・作成したりする。	◎	○	◎
基礎実習	・教育実習の概要や教科指導（授業案の作成等）についての理解を深める。 ・参観実習においては授業の実際に触れ留意点をとらえ、教育実習に対する課題意識を明確にする。	◎	○	◎
介護体験実地	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する意識を深めることを目指す	◎	○	◎
特別支援教育基礎論	特別支援教育の理念や意義、および、そのシステムの概要を理解する。 ①障害という状態や概念について理解する。 ②特別支援教育の歴史、理念、システムについての基礎的な事柄を理解する。 ③特別支援教育の対象となる障害の特性および基本的な対応について理解する。 ④障害はないが、特別の教育的ニーズのある子どもへの支援について理解する。	◎	○	◎
中等国語科指導法 D	・中学校および高等学校における国語科教育の現状を理解し、実際に授業計画、学習指導案を作成できるようになる。	◎	○	◎
中等数学科指導法 D	数学科の学習内容を理解するとともに、その指導方法を身に付けることを通して、中学校・高等学校の数学教育についての理解を深めること。指導に必要な素地を培うとともに、数学を学ぶ立場から、数学を教える立場への意識転換を図ること。「数学を教える」とはどのようなことであるかを理解すること。特に、資料の活用領域の教材を深く理解すること。	◎	○	◎
中等理科指導法 D	・理科の授業研究の基本を理解する ・模擬授業を通じて、授業の目標設定から授業の設計、授業中の指導技術、および授業の評価と改善に至る一連の授業研究の技能を培う	◎	○	◎
中等保健体育科指導法 D	1・体育科教育学の基礎理論を理解し、授業づくりの基盤を確立することができる。2・主に中学校を対象とし、各運動領域について学習指導案を作成することができる。3・模擬授業の実践を通して、教師としての在り方や支援の仕方を身に付け、理論的知識の理解を深めることができる。	◎	○	◎

	中等家庭科指導法D	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育の特性を踏まえて、中等教育の対象生徒にあわせた教材開発ができること。 ・家庭科教育の特徴である実験。実習の実施方法およびそれらを含めたカリキュラムを構成できること。 	◎	○	◎
	中等技術科指導法D	<p>技術教育における実践研究の成果を通して、授業の改善と指導の工夫を身につける。また、3年間を見通した指導計画及び評価計画を立案する力を身につける。技術教育の国際比較を通して、これからの技術教育のあり方を考える。</p>	◎	○	◎
	応用実習 I	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や教材解釈や授業案の作成の仕方、授業の中での説明や発問の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、授業後の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。 	◎	○	◎
4	教職実践演習（小・中・高）	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の職責や直面する課題について理解を深め、教師としての資質能力（社会性・コミュニケーション力・児童理解力・指導力等）を高め、同時にその力量を自ら向上させるための教育臨床的研究の方法・知見の修得をより進めることを目的とする。 ・児童生徒の特質や心身の状況の理解のための資質・能力を向上させ、教材研究・カリキュラム開発、授業の計画・実施及び学級経営など、教育実践を行う上で必要となる技能と結びつけて実践力を高めることを目指し、それらを支える専門的な知見を総合的に深めることを目指す。これらを通して教師としての専門的な資質能力を確かなものとする。 	◎	○	◎